

初代門司駅遺構を未来に残すために全市一体で活動できる新しい会

「門司・北九州の未来を考える会」に集いませんか

会代表：平出隆（北九州市文化大使／多摩美術大学名誉教授）

1 初代門司駅遺構の奇跡的発見

昨 2023 年 10 月、門司港駅そばの複合公共施設建設予定地に、初代門司駅遺構が発見されました。海港と鉄道駅と都市の建設が一体的に進められた、日本近代化を体現する貴重な遺構であり、また古代からの門司の歴史を示す国指定史跡級の遺跡でもあり、併せて世界遺産に匹敵するとして、世界から注目されています。4 月 12 日には産業遺産保存国際委員会のオグルソープ会長から「現地保存を」の声明文が出され、5 月 21 日には考古学、建築史学など 11 の学会から「合同要望書」が文部科学大臣、北九州市長ほか宛に発出されました。

2 ヘリテージ・アラートの発出

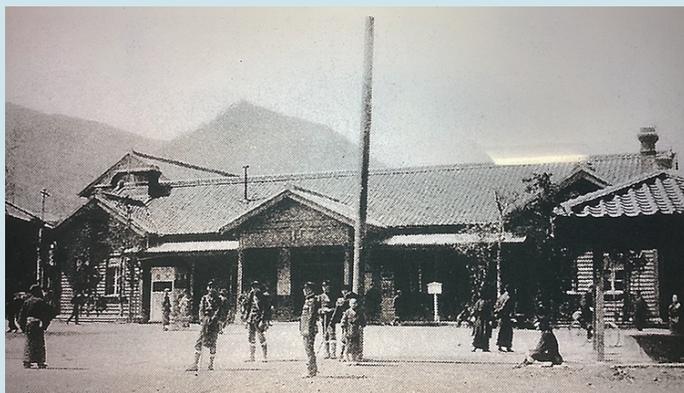
北九州市の取り壊し方針に対し、6 月 26 日、国際記念物遺跡会議（イコモス）は「遺構保存を求める緊急声明」により破壊への懸念を表明しましたが、とうとう 9 月 4 日、初代門司駅関連遺構の解体中止を求める緊急要請「ヘリテージ・アラート」を発出しました。しかし、市長は同日に「公共施設の老朽化は待たなしの状況であり、事業を計画通りに進める」と門司区民の意向（市への質問 312 件の分析による）に反するコメントをしています。8 月 26 日からの「追加調査」が終わる 2、3 か月後に、遺構は破壊されるでしょう。

3 北九州市を感謝・誇り・プライドが生まれるまちに

初代門司駅遺構の解体方針の見直しを求め、門司区の 11 のまちづくり団体が新たに「門司の未来を考える会」を結成、8 月 22 日から 2 度にわたり賛否両方の市民へ呼びかけて現状説明会を開き、事実関係の説明と遺跡の共存案の模索を含めた市との対話を求める活動を本格化しました。それでも北九州市民全体への周知ができていません。このため、9 月 5 日の会議で会の名称を「門司・北九州の未来を考える会」として全市 7 区に分けて説明会などを行うことにしました。北九州市を感謝・誇り・プライドが生まれるまちにしましょう。

4 市による問答無用の破壊を止めて、市民自身で未来を考えよう

このままでは、市民が公正な情報を与えられず、明朗な議論を交わすこともなしに、初代門司駅遺構はまもなく永久に破壊されてしまいます。2024 年の北九州市民は存在しなかったことにもなりかねません。市長がいったん立ち止まって、住民や専門家の意見に耳を傾け、最良の判断を下すよう、強く求めていきましょう。



●保存案の例 1： 明治 24 年の開業時の初代門司駅。駅舎は木造瓦葺き。これを復元して内部を区役所の窓口機能とする案は、2 億 6000 万円が可能。



●保存案の例 2： スイスのローマ遺跡。シェルターを掛けただけの遺跡ひろば化でも、優れたデザインと機能で人々を魅惑。ピーター・ズントー設計。



⇨集会日程の最新情報はここから

遺構の詳細資料や動画はここから⇨

